



## D コマンド

この章では、D で始まる Cisco Nexus Virtual Services Appliance コマンドについて説明します。

### deadtime

到達不可能な TACACS+ サーバをスキップする間隔を設定するには、**deadtime** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**deadtime** *minutes*

**no deadtime** *minutes*

#### 構文の説明

*minutes* 分単位の間隔です。0 ~ 1440 の値を指定できます。

#### デフォルト

0 分

#### コマンド モード

TACACS+ サーバ グループ コンフィギュレーション (config-tacacs+)  
グローバル コンフィギュレーション (config)

#### サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

#### 使用上のガイドライン

設定する前に、**tacacs+ enable** コマンドを使用して TACACS+ をイネーブルにする必要があります。デッドタイムは、グローバルに設定してすべての TACACS+ サーバに適用することも、サーバグループごとに適用することもできます。

TACACS+ サーバ グループのデッドタイム間隔が 0 より大きい場合は、その値がグローバルなデッドタイム値より優先されます。

デッドタイムの間隔の設定をゼロ (0) にすると、タイマーがディセーブルになります。

デッドタイム間隔が 0 分の場合、TACACS+ サーバは、応答を返さない場合でも、デッドとしてマークされません。

**例**

次に、すべての TACACS+n1010+ サーバおよびサーバグループのグローバルデッドタイムの間隔を 5 分に設定する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# tacacs-server deadtime 5
n1010(config)#
```

次に、TACACS+ サーバグループのデッドタイムの間隔を 5 分に設定する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# aaa group server tacacs+ TacServer
n1010(config-tacacs+)# deadtime 5
```

次に、デッドタイムの間隔をデフォルト値に戻す例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# feature tacacs+
n1010(config)# aaa group server tacacs+ TacServer
n1010(config-tacacs+)# no deadtime 5
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>aaa group server</b>	AAA サーバグループを設定します。
<b>show tacacs-server</b>	TACACS+ サーバの設定を表示します。
<b>tacacs+ enable</b>	TACACS+ をイネーブルにします。
<b>tacacs-server host</b>	TACACS+ サーバを設定します。

# debug logfile

指定のファイルに **debug** コマンドの結果を出力するには、**debug logfile** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug logfile filename [size bytes]
```

```
no debug logfile filename [size bytes]
```

構文の説明	
<i>filename</i>	<b>debug</b> コマンドの出力ファイルの名前。ファイル名は、最大 64 文字の長さの英数字で、大文字と小文字が区別されます。
<i>size bytes</i>	(任意) ログファイルのサイズをバイト単位で指定します。有効な範囲は 4096 ~ 4194304 です。

デフォルト	
	デフォルトのファイル名 : syslogd_debugs
	デフォルトのファイル サイズ : 4194304 バイト

コマンドモード	
	任意のコマンドモード

サポートされるユーザーロール	
	ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	
	ログファイルは、log: ファイル システム ルート ディレクトリに作成されます。ログ ファイルを表示するには、 <b>dir log:</b> コマンドを使用します。

例	
	次に、デバッグ ログファイルを指定する例を示します。 n1010# <b>debug logfile debug_log</b>
	次に、デフォルトのデバッグ ログファイルに戻す例を示します。 n1010# <b>no debug logfile debug_log</b>

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>debug logging</b>	<b>debug</b> コマンド出力ロギングをイネーブルにします。
	<b>dir</b>	ディレクトリの内容を表示します。

# debug logging

**debug** コマンド出力ロギングをイネーブルにするには、**debug logging** コマンドを使用します。デバッグロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug logging**

**no debug logging**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

ディセーブル

## コマンドモード

任意のコマンドモード

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

## 例

次に、**debug** コマンドの出力のロギングをイネーブルにする例を示します。

```
n1010# debug logging
```

次に、**debug** コマンドの出力のロギングをディセーブルにする例を示します。

```
n1010# no debug logging
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>debug logfile</b>	<b>debug</b> コマンド出力のログファイルを設定します。

# default shutdown (インターフェイス)

インターフェイス レベルでの管理ステータスの上書きを削除するには、**default shutdown** コマンドを使用します。

## default shutdown

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

なし

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

### サポートされるユーザーロール

ネットワーク管理者

### コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

**default shutdown** コマンドでは、以前に入力された管理ステータスのすべての設定が削除されます。これにより、ポート プロファイルの設定が有効になります。

### 例

次に、ポートをシャットダウン状態に変更する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# interface ethernet 3/2
n1010(config-if)# default shutdown
n1010(config-if)#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show running-config interface</b>	インターフェイスの設定を表示します。

# delay

イーサネット インターフェイスにスループット遅延値情報を割り当てるには、**delay** コマンドを使用します。遅延値を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**delay** *value*

**no delay** [*value*]

## 構文の説明

*value* スループット遅延時間を 10 マイクロ秒単位で指定します。  
範囲は 1 ~ 16777215 です。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

## サポートされるユーザロール

ネットワーク 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

この値を設定しても、実際のイーサネット インターフェイスのスループット遅延時間は変化しません。この設定は情報提供だけを目的としています。

## 例

次に、スロット 3 のポート 1 にあるイーサネット インターフェイスに遅延時間を割り当てる例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# interface ethernet 3/1
n1010(config-if)# delay 10000
n1010(config-if)#
```

次に、遅延時間の設定を削除する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# interface ethernet 3/1
n1010(config-if)# no delay 10000
n1010(config-if)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show interface</b>	インターフェイスの設定情報を表示します。

# delete

ファイルを削除するには、**delete** コマンドを使用します。

```
delete [filesystem:[//directory/] | directory/]filename
```

構文の説明		
<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 <b>bootflash</b> または <b>volatile</b> です。	
<i>//directory/</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。	
<i>filename</i>	ファイルの名前。名前では、大文字と小文字が区別されます。	

**デフォルト** なし

**コマンド モード** 任意のコマンド モード

**サポートされるユーザロール** ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** 削除するファイルを見つけるには、**dir** コマンドを使用します。

**例** 次に、ファイルを削除する例を示します。  

```
n1010# delete bootflash:old_config.cfg
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>dir</b>	ディレクトリの内容を表示します。

# description (インターフェイス)

インターフェイスの説明を追加して、実行コンフィギュレーションに保存するには、**description** コマンドを使用します。インターフェイスの説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**description** *text*

**no description**

構文の説明	<i>text</i>	インターフェイスについての説明です。最大数は 80 文字です。
デフォルト		なし
コマンド モード		インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)
サポートされるユーザロール		ネットワーク管理者
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。
例	次に、インターフェイスの説明を追加して実行コンフィギュレーションに保存する例を示します。 <pre>n1010(config-if)# <b>description</b> Ethernet port 3 on module 1</pre> 次に、インターフェイスの説明を削除する例を示します。 <pre>n1010(config-if)# <b>no description</b> Ethernet port 3 on module 1</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	<b>interface loopback</b>	ループバック インターフェイスを作成して設定します。
	<b>interface mgmt</b>	管理インターフェイスを設定します。
	<b>interface vlan</b>	インターフェイスと VLAN ID を仮想サービスに割り当てます。
	<b>show interface</b>	インターフェイスの説明を含むステータスを表示します。



# description

仮想サービスに説明を追加するには、**description** コマンドを使用します。

## **description** *string*

構文の説明	<i>string</i>	仮想サービスを指定します。最大数は 80 文字です。
デフォルト		なし
コマンドモード		仮想サービス ブレード コンフィギュレーション (config-vsbs-config)
サポートされるユーザロール		ネットワーク管理者
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	<b>description</b> コマンドで変更する仮想サービスを、 <b>virtual-service-blade</b> コマンドで決定します。	
例	次に、仮想サービスの説明を追加して実行コンフィギュレーションに保存する例を示します。 <pre>n1010# configure terminal n1010(config)# virtual-service-blade VSM-1 n1010(config-vsbs-config)# description vsm hamilton storage</pre> 次に、仮想サービスの説明を削除する例を示します。 <pre>n1010(config-if)# no description</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show virtual-service-blade</b>	仮想サービス ブレードに関する情報を表示します。
	<b>show virtual-service-blade-type summary</b>	すべての仮想サービスの設定の要約をタイプ名ごとに表示します。
	<b>virtual-service-blade</b>	指定した仮想サービスを作成して、そのサービスのコンフィギュレーション モードに切り替えます。
	<b>virtual-service-blade-type</b>	この仮想サービスに追加するソフトウェア イメージ ファイルのタイプと名前を指定します。

# dir

ディレクトリまたはファイルの内容を表示するには、**dir** コマンドを使用します。

**dir** [**bootflash:** | **debug:** | **log:** | **volatile:**]

## 構文の説明

<b>bootflash:</b>	(任意) ディレクトリまたはファイル名を指定します。
<b>debug:</b>	(任意) 拡張フラッシュのディレクトリまたはファイル名を指定します。
<b>log:</b>	(任意) ログ フラッシュのディレクトリまたはファイル名を指定します。
<b>volatile:</b>	(任意) 揮発性フラッシュのディレクトリまたはファイル名を指定します。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

任意のコマンド モード

## サポートされるユーザロール

ネットワーク 管理者  
ネットワーク オペレータ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

現在の作業ディレクトリを識別するには、**pwd** コマンドを使用します。  
現在の作業ディレクトリを変更するには、**cd** コマンドを使用します。

## 例

次に、**bootflash:** ディレクトリの内容を表示する例を示します。  
n1010# **dir bootflash:**

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>cd</b>	現在の作業ディレクトリを変更します。
<b>pwd</b>	現在の作業ディレクトリを表示します。

# domain id

ドメイン ID を割り当てるには、**domain id** コマンドを使用します。ドメイン ID を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**domain id number**

**no domain id**

## 構文の説明

*number*                   ドメイン ID 番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 4095 です。

## デフォルト

なし

## コマンドモード

ドメイン コンフィギュレーション (config-svs-domain)

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

Cisco Nexus 1000V をインストールする際、セットアップユーティリティでは、ドメイン ID、コントロール VLAN、パケット VLAN など、ドメインの設定が求められます。

## 例

次に、ドメイン ID を割り当てる例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# sve-domain
n1010(config-svs-domain)# domain id number 32
n1010(config-svs-domain)#
```

次に、ドメイン ID を削除する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# sve-domain
n1010(config-svs-domain)# no domain id number 32
n1010(config-svs-domain)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show svcs domain</b>	ドメイン コンフィギュレーションを表示します。

# duplex

インターフェイスを全二重モード、半二重モード、または自動ネゴシエートモードに設定するには、**duplex** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**duplex** {full | half | auto}

**no duplex** [full | half | auto]

## 構文の説明

<b>full</b>	インターフェイスを全二重モードに指定します。
<b>half</b>	インターフェイスを半二重モードに指定します。
<b>auto</b>	インターフェイスのデュプレックスモードを接続先ポートが自動ネゴシエートするように設定します。

## デフォルト

なし

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドの **no** 形式を使用する場合、キーワード (full、half、auto) を省略できます。デフォルトのデュプレックス設定に戻すには、次のいずれかのコマンドを使用できます (たとえば、設定が full に変更されていた場合)。

```
n1010(config-if)# no duplex
```

```
n1010(config-if)# no duplex full
```

## 例

次に、スロット 3 にあるモジュールのイーサネット ポート 1 を全二重モードに設定する例を示します。

```
n1010 configure terminal
n1010(config)# interface ethernet 2/1
n1010(config-if)# duplex full
```

次に、スロット 3 にあるモジュールのイーサネット ポート 1 をデフォルトのデュプレックス設定に戻す例を示します。

```
n1010 configure terminal
n1010(config)# interface ethernet 2/1
n1010(config-if)# no duplex
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>interface</b>	設定するインターフェイスを指定します。
<b>show interface</b>	インターフェイス ステータスを表示します。速度およびデュプレックスモードパラメータもあわせて表示します。
<b>speed</b>	ポートチャネル インターフェイスの速度を設定します。

